

平賀源内が作った枕

HIRAGA GENNAI

香川大に伝わるお宝
「源内焼の枕」
その背景を紐解くと
様々な謎が明らかに



平賀源内（平賀源内記念館 蔵）

源内焼の「枕」が香川大博物館に！

発明家、蘭学者、本草学者、浄瑠璃作者、俳人、画家、コピーライター…。文系理系問わず、さまざまな分野で才能を発揮した平賀源内。現在のさぬき市志度で生まれた、香川が誇る江戸時代の奇才です。NHKの大河ドラマ『べらぼう』に登場したことも話題となっています。

かつて源内が、陶器産業を興そうとしたことをご存知でしょうか。長崎遊学の際に中国やオランダから高価な陶磁器が輸入されているのを見た源内は、それらより優れた陶器を作って輸出すれば国益になると確信。地元志度の、鮮やかな色遣いが目を惹く「源内焼」の陶法を指導し、多くの作品が誕生しました。資金援助を得ようと当時の幕府に『陶器工夫書』を提出しますが、残念ながら不採用。陶器産業を軌道に乗せることは叶いませんでしたが、熱心な陶法指導は源内の功績のひとつとなりました。

そんな「源内焼の作品のひとつが、香川大博物館に収蔵されています。それはなんと「枕」！なぜ源内は枕を作ったのか、なぜ香川大博物館に収蔵されているのか、そして平賀源内とはどのような人物だったのか。平賀源内の妹の子孫で平賀家7代目当主である平賀一善さん、収蔵の経緯を知る郷土史家である英明高校の田山泰三先生、香川大博物館の寺林優館長にお話を聞きました。

1
Narrator

平賀さんに聞く

西洋画と日本画を繋ぐ存在



平賀家7代目当主
ひらが かずよし
平賀 一善

香川県さぬき市出身。平賀源内旧邸、薬草園、平賀源内記念館などの案内を通して、源内を今に伝える。

西洋文化に精通したことで、優れた色彩感覚を養った源内。源内焼の大胆な色遣いには、目を見張るものがあります。源内はオランダのプルシアンブルーという鮮やかな青色の合成顔料にいち早く着目し、日本に紹介。それまで難しかった表現が可能になったことで風景版画は様相が一変し、葛飾北斎や歌川広重の浮世絵界を代表する名作が誕生しました。

源内焼の枕の存在は聞いていましたが、対面するのは初めて。動物モチーフの源内焼は珍しいです。恩師へ贈った枕のこと。源内の感謝の気持ちもこの枕に入っていると思います。私は家族から源内の話を聞かされたことがあまりなく、ずっと近いようで遠い存在でした。しかし次第に自分が源内について答えられないのは難儀だと思うようになり、50代になってから本を読んだり、源内について詳しい先生方にお話を聞いたりして、先祖について学びはじめました。これからの人生は、源内の新たな魅力を調査し、それを世に広めることに費やしたいです。

2
Narrator

枕は、恩人への贈り物

この枕は、西洋古典学の第一人者であり東京大学名誉教授で日本学士院長だった、高松市に縁のある久保正彰先生が香川大に寄贈したものです。なぜ久保家に枕が伝わったかというと、久保先生の先祖である久保桑閑は、源内を自費で長崎に連れて行き、西洋に目を開かせた張本人だからです。枕が作られた時期まではわかっていませんが、長崎に連れて行ってもらったお礼として、源内が久保家にプレゼントしたものだと思われます。2011年、香川大の公開講演会に久保先生が講師として招かれ、郷土を深く愛していられしやうな久保先生は感激。香川大との縁が結ばれたお礼としてこの枕を寄贈されました。

源内には科学だけではなく、芸術、文学においても多大なる功績がありますが、生前は正当な評価が得られませんでした。しかしそれにもめげず、彼は自分の信念を貫き通しました。現代もなお、源内の名前が世に残っている理由のひとつと言えるでしょう。信念を貫き通すことの大切さを、源内は身をもって我々に教えてくれています。



英明高等学校 国語科教員
たやまたいぞう
田山 泰三

香川県綾歌郡出身。主要編著書『父たちとの語らい』『カラヤンと中野武堂』ほか。専門は日本漢詩文。

3
Narrator

実用品としての源内焼

久保正彰先生のお話では、久保家はもともと高松藩の藩医で、この枕は診療時に使われていたのではないとのこと。日本髪を結いていると高い枕が必要なので、この枕も高さがあります。実際に使われていた証として、釉薬の一部が剥けているのが味わい深いですね。主に観賞用であったとされる源内焼ですが、実用品も作られていたことがうかがえます。

源内焼の枕という貴重な品を受け取ったあと、2012年に高松市歴史資料館の企画展「久保桑閑とその時代」で展示したことはありますが、これまで博物館では一般公開はせずに厳重に保管してきました。しかし今後は、常設展示することも視野に入れています。たとえば、香川大が生み出し、世界中に普及した希少糖の展示とこの枕を並べることができそうです。学生たちの学びにも大きな刺激を与えられると確信しています。



香川大学博物館長・
創造工学部 教授
てらばやし けんじ
寺林 優

富山県入善町出身。東京大学大学院理学系研究科地質学専攻博士課程退学。2011年から工学部(2018年から創造工学部)教授。専門は地質学。



香川大学博物館は
こちらから